

緊急時マニュアル 大地震が起きた場合(大学 HP より抜粋)

1 地震が発生した瞬間の対応

- 窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。
- 机の下などにもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆うなどして、落下物から頭と手足を守る。
- ドアを開け、出口を確保する。

2 揺れがおさまった後の対応 自分自身の心構え

- 冷静に、落ち着く。
- 余震に備え、慌てずしばらく様子を見る。
- 建物に傾きやひびはないか、火災は起きていないか、負傷者はいないかなどの確認をする。火災の場合、負傷者がいる場合は、最寄りの教員・スタッフに連絡をした上で、自分の身が安全な範囲で初期消火、応急手当をする。

避難場所(裏面参照)へ移動するかの判断基準

- 火災が起きていないか。起きていれば消火できるかどうか。
- 建物が傾いたり、壁にひびが入ったり崩れたりしていないか。
- 周囲の教室や部屋の状況はどうか。

以上のポイントが「安全」と確認できた場合は、指示があるまでその場を動かない。

行動に移るときのポイント 「安全」が確認できない場合は、次のとおり行動する。

- 火災が起きている場合は、タオルやハンカチで口を覆う。
- どのルートで避難すれば安全か確認する。

火災が発生した場合の行動

- 火災報知器や大声で火災を周囲に知らせる。
- 消火器や屋内消火栓を使用して、できるだけ早めに初期消火に努める。
- 消火不可能の判断は早めにし、手におえない時は速やかに避難する。

避難経路・避難場所

大学ではあらかじめ設定した場所を一時避難場所と想定していますが、地震時の状況により安全な場所に避難してください。

